



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月14日

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス  
 コード番号 4584 URL <http://www.g-gts.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 河南 雅成  
 (氏名) 三ツ木 勝俊  
 TEL 03-3517-1353

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	157	285.1	△301	—	△303	—	△305	—
25年3月期第3四半期	40	—	△285	—	△299	—	△302	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△143.88	—
25年3月期第3四半期	△212.66	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	2,072	—	823	—	—	39.0
25年3月期	922	—	888	—	—	96.3

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 808百万円 25年3月期 888百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	312	415.9	△965	—	△974	—	△977	—	△452.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	2,147,000 株	25年3月期	2,081,100 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	— 株	25年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	2,121,677 株	25年3月期3Q	1,421,246 株

(注) 平成24年8月8日付で株式1株につき100株の株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 新株予約権の行使により、平成26年2月6日付で12,000株、平成26年2月7日付で225,105株、発行済株式数が増加しております。業績予想における1株当たり当期純利益は、当該増加株式数を反映して算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第3四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5
(重要な後発事象) .....	5

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、政府の経済政策「アベノミクス」を背景に円安・株高が進み、輸出関連企業を中心に企業業績が好転するとともに株高に伴い個人消費も上向き、景気の上昇機運が生まれました。しかし一方で、米国の金融引締めに向けての動きが新興国の景気減速の懸念を招き、また、急激な円安により輸入原材料等の価格が上昇するなどの問題も同時に生じております。さらに、来年度の消費税増税による個人消費への影響など、国内景気の下振れ懸念も出てきており、その対策として補正予算を積み増すなどの短期的な手当てが行われております。

当社が属する医療分野は、日本が迎える高齢化社会への対策として最も密接な分野であり、社会的に真に期待される分野であることに加え、「アベノミクス」の成長戦略の大きな柱でもあります。当社といたしましては、6月にまとめられる成長戦略における具体的施策に注目しており、ここで盛り込まれる「日本版NIH」の創設や規制緩和の促進により、日本経済において医療分野が真の柱となることを期待しております。

このような環境下、当社は厚生労働省が新たに設定したバイオ医薬品のジェネリック「バイオ後続品」の開発を製薬企業と共同で進め、日本で最初のバイオ後続品としてG-CSFが平成25年5月より富士製薬工業㈱と持田製薬㈱により国内販売されております。なお、当第3四半期累計期間の売上高には計上しておりませんが、本年度2ロット目のG-CSF原薬を既に富士製薬工業㈱に納品しておりますので、当事業年度の販売計画ロット数を達成できる見込みとなりました。また、その他のバイオ後続品についてもアライアンス活動に積極的に取り組み、平成25年8月に伊藤忠ケミカルフロンティア㈱と資本業務提携を行い、第2弾のバイオ後続品の共同開発を開始しております。さらに、平成26年1月21日付で㈱三和化学研究所とダルベポエチンアルファのバイオ後続品について国内での共同開発契約を締結し、着実にバリューチェーンの構築を進めております。

一方、バイオ新薬事業では、自社開発を強化するために、平成25年度「個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発(国際基準に適合した次世代抗体医薬等の製造技術)」補助事業の採択を受けて、次世代抗体医薬の研究を開始しております。当第3四半期累計期間において、バイオ新薬事業は業績には寄与しておりませんが、将来への仕込みを着実に進め、テーマの付加価値を高めて製薬企業とのアライアンスに結び付けるよう努めてまいります。

これらの結果、売上高は157,508千円(前年同期比285.1%増)、営業損失は301,145千円(前年同期は285,046千円の営業損失)、経常損失は303,229千円(前年同期は299,699千円の経常損失)、四半期純損失は305,275千円(前年同期は302,242千円の四半期純損失)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の変動について)

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末比124.7%増の2,072,974千円となりました。これは主に、現金及び預金が870,377千円、売掛金が145,839千円、流動資産のその他に含まれる前渡金が146,820千円増加したことによるものであります。現金及び預金の増加については、転換社債型新株予約権付社債等の発行及び第三者割当増資による資金調達が主な要因であります。前渡金の増加については、バイオ後続品に係る開発費の前払いが主な要因であります。なお、売掛金については、当社の取引件数が少なく、かつ、1件当たりの取引金額が大きいため、四半期会計期間末直前の取引状況により、四半期会計期間末における残高が大幅に増減する傾向にあります。

#### (負債の変動について)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末比1,214,989千円増の1,249,410千円となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債が1,200,000千円増加したことによるものであります。

#### (純資産の変動について)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末比7.3%減の823,563千円となりました。これは、第三者割当増資及び新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ112,895千円増加し、新株予約権の発行により新株予約権が15,040千円増加したものの、四半期純損失を305,275千円計上したことによるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年8月5日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、通期の売上予想に関しましては、本年度2ロット目のG-CSF原薬を既に富士製薬工業㈱に納品しておりますので、当事業年度の販売計画ロット数を達成できる見込みとなりました。

2. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	887,428	1,757,805
受取手形及び売掛金	16,833	153,052
その他	14,878	156,917
流動資産合計	919,140	2,067,775
固定資産		
有形固定資産	582	624
無形固定資産	323	294
投資その他の資産	2,382	4,280
固定資産合計	3,288	5,198
資産合計	922,429	2,072,974
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払法人税等	6,788	3,600
その他	18,122	38,017
流動負債合計	24,910	41,617
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	1,200,000
退職給付引当金	9,510	7,792
固定負債合計	9,510	1,207,792
負債合計	34,420	1,249,410
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,239,895	1,352,790
資本剰余金	1,143,161	1,256,057
利益剰余金	△1,495,048	△1,800,323
株主資本合計	888,008	808,523
新株予約権	—	15,040
純資産合計	888,008	823,563
負債純資産合計	922,429	2,072,974

(2) 四半期損益計算書  
 (第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	40,901	157,508
売上原価	380	75,984
売上総利益	40,520	81,524
販売費及び一般管理費		
研究開発費	192,841	186,800
その他	132,726	195,868
販売費及び一般管理費合計	325,567	382,669
営業損失(△)	△285,046	△301,145
営業外収益		
受取利息	31	365
講演料収入	140	—
受取返戻金	150	—
為替差益	11	—
雑収入	52	56
営業外収益合計	386	422
営業外費用		
社債発行費等	—	918
株式交付費	5,570	1,580
株式公開費用	9,469	—
為替差損	—	7
雑損失	—	0
営業外費用合計	15,039	2,506
経常損失(△)	△299,699	△303,229
税引前四半期純損失(△)	△299,699	△303,229
法人税、住民税及び事業税	2,542	2,045
法人税等合計	2,542	2,045
四半期純損失(△)	△302,242	△305,275

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年8月22日付で伊藤忠ケミカルフロンティア(株)から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、資本金が100,895千円、資本準備金が100,895千円増加し、当第3四半期累計期間における新株予約権の行使による増加を含め、当第3四半期会計期間末において資本金が1,352,790千円、資本準備金が1,256,057千円となっております。

(重要な後発事象)

新株予約権の行使による新株式の発行

平成26年2月7日付で、(株)ウィズ・パートナーズが無限責任組合員として組成する投資事業有限責任組合の保有する当社第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権の一部(17個)について、以下のとおり権利行使がありました。

① 発行株式の種類及び数	普通株式		225,105株
② 発行価額	1株につき		1,888円
③ 発行価額の総額			425,000千円
④ 増加する資本金及び	増加する資本金	1株につき	944円
資本準備金に関する事項	増加する資本準備金	1株につき	944円
⑤ 資本組入額の総額			212,500千円

なお、この権利行使により、ウィズ・ヘルスケアPE1号投資事業有限責任組合は当社の筆頭株主となりました。